

(別表第1の3)

[認知症対応型共同生活介護用]

1. 評価結果概要表

作成日 平成 19 年 10 月 31 日

【評価実施概要】

事業所番号	3870102401		
法人名	(有)ティーエムコーポレーション		
事業所名	グループホーム すみれの家		
所在地	松山市北斎院町1072-1	(電話)	089-905-6006
管理者	松田和恵		
評価機関名	愛媛県社会福祉協議会 利用者支援班		
所在地	愛媛県松山市持田町三丁目8-15		
訪問調査日	平成 19 年 8 月 6 日	評価確定日	平成 19 年 11 月 7 日

【情報提供票より】 (平成 19 年 7 月 15 日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 14 年 2 月 18 日		
ユニット数	3 ユニット	利用定員数計	25 人
職員数	28 人	常勤	20 人, 非常勤 8 人, 常勤換算 8.2 人

(2) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	13,500 円	
敷金	有()円 ○ 無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有()円 ○ 無	有りの場合 償却の有無		
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		1,000 円	

(3) 利用者の概要 (平成 19 年 7 月 15 日事業所記入)

利用者人数	25 名	男性	10 名	女性	15 名
要介護1	6 名	要介護2	5 名		
要介護3	6 名	要介護4	3 名		
要介護5	4 名	要支援2	1 名		
年齢	平均 80.9 歳	最低	52 歳	最高	97 歳

(4) 他に事業所として指定等を受けている事業及び加算

指定	あり	指定介護予防認知症対応型共同生活介護
指定	あり	指定認知症対応型通所介護
届出	あり	短期利用型共同生活介護
加算	あり	医療連携体制加算

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

中学校近くの住宅地にあり、元社員寮を改装した2階建てのホームである。開設して5年半が経過し、同法人の他ホームとの情報交換や統括管理者との連絡等により十分連携がとれている。利用者の状態は少しずつ重度化しているが、各々の変化に応じて支援をしている。ターミナルにも対応できるよう教育をはじめ、準備を進めている。運営推進会議を開催することで地域とのつながりはより広がりを見せている。職員には看護師もおり、医療等の対応は比較的スムーズである。寝たきり、胃ろう等の対応も適切に行っている。

【質向上への取組状況】

▼ 前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
 前回、地域との関わりが少なく評価を受け、運営推進会議を通じて関わりを深めている。防災訓練も地域の協力のもとに行い、災害対応マニュアルを整備している。同法人運営のデイケアセンターとの行事に地域の人の参加も得られるようになった。

▼ 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
 全職員で検討するまでには到らなかったため、評価の意義の理解が十分でない職員もいる。今後実りのある自己評価となるように期待する。

▼ 運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
 運営推進会議の中で、防災対策について地域の中での役割や協力体制、また訓練・非常用物品等について対策を検討している。また、町内行事の参加について情報交換をしたり、ホームの案内等をして理解を深めてもらうよう努めている。

▼ 家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
 電話、手紙、面接等できるだけ話しやすい様に工夫している。すぐ対応できる事柄は直ちに検討し対応している。また説明不足のことについてはじっくり話し合っている。家族からは一時的な施設のこと等についての意見があったが、その都度話し合って対応している。

▼ 日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
 自治会、町内会に参加している。散歩中にあいさつや会話をしたり、町内行事へ参加したりして地域の人との交流を楽しんでいる。運営推進会議のメンバーを通じて地域の防災活動に参加協力を予定している。

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目
(評価項目の構成)

I.理念に基づく運営

1. 理念の共有
2. 地域との支えあい
3. 理念を実践するための制度の理解と活用
4. 理念を実践するための体制
5. 人材の育成と支援

II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援

III.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

1. 一人ひとりの把握
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し
3. 多機能性を活かした柔軟な支援
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働

IV.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

1. その人らしい暮らしの支援
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり

V.サービスの成果に関する項目

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー
 “愛媛県地域密着型サービス評価”

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議の上記入すること。
- 各自己評価項目について、「取組みの事実」を記入し、取組みたいに※を付け、適宜その内容を記入すること。
- 「取組みの事実」は必ず記入すること。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含む。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含む。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含む。

事業所名	グループホームすみれの家
(ユニット名)	根っこ
記入者 氏名	中野 和子
評価完了日	平成19年 7月 15日

(別表第1)

自己評価及び外部評価票

【セル内での改行は「Alt+Enter」です。】

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	(自己評価) 地域のさまざまな行事へ参加する。	※	地域と連携して防災組織作りを進めている。
			(外部評価) 開設時の理念を継続しているが、5年を経過して地域密着を視点に入れた理念については、職員間で話し合いが十分でない。	※	職員は地域とのつながりを大切にしており、その重要性も理解しているが、利用者の視点で地域とのつながりについて職員間で再考することを期待する。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	(自己評価) 折に触れ意識づけしている。	※	新人職員には新たためて話していきたい。
			(外部評価) 見えるところに掲示しておりミーティング時に話し合っている。また法人内のグループの役職者会議で情報交換し、取り組んでいる。		
3		○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	(自己評価) 取り組みをする必要がある。	※	判り易い言葉にして明示すべきである。
2. 地域との支えあい					
4		○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	(自己評価) ①第2デイサービス（小規模多機能型）ができ、その付き合いができています。	※	①にあやかってすみれの家独自に文化祭などしていけば良いと思う。
5	3	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	(自己評価) 今はまだないが今後老人会等参加できれば良いと思う。	※	行事には参加している。
			(外部評価) 地域の活動には意欲的に参加しており、少しずつ機会を増やしている。利用者は地域の人々に顔を知ってもらっている。	※	努力しているので、さらに続けていく事を期待する。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6		○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	(自己評価) いない	※	今後取り組んでいけたら良い。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
7	4	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	(自己評価) 活かしきれていない。	※	改善策を作り取り組んでいきたい。
			(外部評価) 評価の意義を理解して活かすことが十分でない職員もいる。自己評価ももっと時間をかけて丁寧に取り組みたいと職員は考えている。	※	職員全体で意義を理解し、評価や結果を活かして具体的に改善につなげることを期待する。
8	5	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 活かしきれていない。	※	話し合いの場をもつべきである。
			(外部評価) まだまだ会議が十分活用されていない所もあるが、防災訓練については地域と協働の取り組みが始まっている。	※	運営方法等について工夫しながら今後も努力を続けることを期待する。
9	6	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	(自己評価) もっと機会を作るべきである。	※	話を伺いサービスの質の向上につなげていくべきである。
			(外部評価) 町内会長の自宅がホームの目の前にあることから、連携が取れ始めてきており、また地域の民生委員との交流もある。	※	機会毎にさらに努力を続けていくことを期待する。
10		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	(自己評価) できている。	※	今後さらに学ぶ機会を持ちたい。
11		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 思いやり心を持って接している。	※	職員間でも徹底して注意を払っている。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制					
12		○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) できている。		
13		○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 不満、苦情についてはその都度ひろいあげ話し合いの場を設けている。	※	今後さらに進めていき苦情に言い易い現場にしたい
14	7	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	(自己評価) 毎月15日付けでご家族さんへ通信を送付、暮らしぶり健康状態をお知らせしている。 (外部評価) 毎月1回書類送付しているほか、面会や電話等で報告したり情報交換しており、健康面は特に細かく連絡している。職員の異動は基本的には伝えていないがケースバイケースで対応している。	※	今後益々充実させていきたい。
15	8	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) ご意見があれば電話であったり、文章であったり、又、面会の時言って頂き反映させている。 (外部評価) 苦情等のホーム内外への連絡先を示している。ホームへ寄せられた意見等は担当者をはじめ管理者、営業等で話し合い、できるだけ早く対応し理解を得られるよう努めている。		
16		○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) ミーティングをしできる事から反映させればと考える。	※	今後さらに進めていければと思っている。
17		○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	(自己評価) 必要がある時の調整はできている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
18	9	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	(自己評価) 利用者の都合により法人内の事業所への移動には馴染のスタッフも一緒に移動させている。 (外部評価) 利用者が法人内の事業所を移るときには職員が同じく異動し、介護者が継続するようにしている。また利用者個々に注目して対応している。	※	馴染の職員で支援できるようにしていきたい。
5. 人材の育成と支援					
19	10	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 研修への参加を常に呼びかけている。 (外部評価) 新採用者は施設のオリエンテーション後2～3日間は先輩職員同伴で教育を受けている。ホーム内では毎日のミーティングや月1回の勉強会を定期的に行っている。外部研修では報告書を提出し、伝達もしている。	※	研修への参加意欲の薄い職員へも参加を勧めていきたい。
20	11	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	(自己評価) 法人内の他の事業所と交流することはあるが他の事業所と交流する機会は少ない。 (外部評価) 法人内の交流はあるが他事業所との交流は進んでおらず、研修や会議等での繋がり程度である。交流する場合は運営法人の統括の了解を得るシステムとなっている。	※ ※	地域の事業所と交流する機会を持ちサービスの質の向上に役立てたい。 日常業務等の内容で意見交換したり交流することも大いに意味があると思われるので、取り組みの検討を期待する。
21		○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	(自己評価) 個別に悩みを聞き解決できるように努めている。	※	さらに、ストレス軽減に向けた工夫や環境作りに取り組むたい。
22		○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	(自己評価) 職員の勤務状況を把握し向上心を持って働けるよう努めている。	※	話す機会を多く持つように努めている。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
23		○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていることを本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	(自己評価) フェースシートを作成し本人自身と話す機会を多くもつようにしている。	※	今後も本人が求めている事に早く気付くよう注意を向けていく。
24		○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	(自己評価) 話し合いの場をもち努力している。		
25		○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) できている。		
26	12	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	(自己評価) 無理なく利用できる工夫をしている。 (外部評価) 営業担当者が配置され、各ホームの状況を把握しており、紹介で入居している。入居にあたっては本人・家族と相談している。また運営法人の別事業所デイケアを利用して入居するケースもある。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
27	13	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	(自己評価) 今までの生活歴を大切にしていき教えていただく事柄があればお願いしている。 (外部評価) 利用者の生活歴を大切に、共に生活する関係を築いている。	※	今後も支えあう関係を大切にしていきたい。
28		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 今後も進めていく必要がある。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
29		○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	(自己評価) できている。	※	さらに、コミュニケーションを取れる機会が増えるようであれば良い。
30		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 努力が必要。	※	ふるさと訪問といった形で出かける事ができると良い。
31		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	(自己評価) 一緒に外出する機会をもつなどしている。		
32		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	(自己評価)	※	声をかける事などしているがさらに努力が必要。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
33	14	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) ご希望は組みながらある程度本人本位に検討している。 (外部評価) 職員は利用者一人一人の思いや意向の把握に努めているが、共有の手段としての記録はADL中心となっており、職員の気づき等の内容がなく、ミーティングやカンファレンスで活かせるものとなっていない。	※	利用者それぞれの思いや意向を把握でき、職員間で共有ししやすい記録となるよう期待する。
34		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 努めている。		
35		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	(自己評価) 努めている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
36	15	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	(自己評価) 3ヶ月毎に新しいプランを作成、毎月5日付け評価をして見直しをしている。		
			(外部評価) 毎日のショートミーティングやユニット会議で話し合い介護計画に活かしている。本人・家族の意見や思いも担当者が中心となり情報収集に努めている。		
37	16	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	(自己評価) 本人の現状に即した新しい計画を作成、ご家族の了解を得ている。		
			(外部評価) 定期的に見直し、毎月ユニット会議で検討している。また状況が変化した時はその都度対応している。	※	それぞれの介護記録は見直しの資料となるよう、利用者の情報が多方面から分かるように様式を工夫したり、記録の仕方を更に検討することを期待する。
38		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 介護計画は職員の目の届く範囲にあり共有している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
39	17	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	(自己評価) 本人の状況に応じ必要なとき一緒に寝泊りしていただく等している。	※	今後さらに必要に応じて活用していきたい。
			(外部評価) 同法人の他ホームの行事に参加したり、受診や理美容等対応している。デイサービスに参加したり胃ろうの人にも対応している。また小学生の福祉体験を受け入れている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
40		○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	(自己評価) 少しずつ前進していていると思う。	※	今後さらに協力しながらいくべきである。
41		○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	(自己評価) できている。		
42		○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	(自己評価) できている。		
43	18	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	(自己評価) 適切にできている。 (外部評価) 本人・家族の希望によるかかりつけ医の治療を受けられるように支援している。緊急時等は利用者ごとのマニュアルを作成しており、家族の了解も得て実践している。		
44		○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	(自己評価) 適切に対応している。		
45		○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	(自己評価) できている。		
46		○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	(自己評価) できている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
47	19	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	(自己評価) 必要に応じて話し合いができています。 (外部評価) 入居時には終末期について話し合えてないが、必要時には医師の診断後に説明し話し合っている。また、医師から直接家族に説明してもらったこともある。職員は不安も大きく情報交換や教育も必要であるため全員で取組みたい。	※	今後さらに話し合いをしていきたい。
48		○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	(自己評価) 変化された内容の検討をし、ご家族さんを交えて話し合いを行う。今後、変化された場合のユニットでの対応を決めておく。医療機関との連絡		
49		○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	(自己評価) ご家族との話し合いを持ち、できる限りの対応に努めている。	※	入所当初の不穏が修まるまでの対応。新しい利用者さん対応のマニュアルを全員で検討し、その都度のミーティングを行う。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
50	20	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	(自己評価) 生活暦を考慮に入れ、個人情報の取り扱い、プライバシーを損ねる事のないように対応している。 (外部評価) 言葉かけや対応は利用者を尊重して対応している。記録類の取り扱いは保管等も含め再確認する。	※	面接ノートをはじめ記録類については、記載内容・方法、保管等について職員間で検討することを期待する。
51		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	(自己評価) できるだけご希望に添えるよう努力している。(また、無理じいする事のないようしている。)		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
52	21	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 体調に考慮しながら、その方のペースを大切に過ごしていく支援をしている。 (外部評価) 一人一人のペースを大切にし、希望にそった支援をしている。		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
53		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	(自己評価) 起床時のケア、2ヶ月に一度位のカットは近くの美容院より来所してもらい対応している。		
54	22	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 体調を見ながらできる手伝いをできる方にやってもらっている。 (外部評価) 食事の準備や片づけができる方にはお願いしている。同じテーブルで楽しんで食事している。また嚥下困難な方へは細かく刻んだりとろみをつけたりやわらかく調理したりして細やかに対応している。		
55		○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	(自己評価) 体調を考慮しながら、好みの物を食べて頂いている。		
56		○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	(自己評価) 利用者さんの反応を見ながらのトイレ介助、時間毎のトイレ誘導をし、不潔になる事のないよう介助している。(テナパック使用中)		
57	23	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	(自己評価) 2～3日に一度のペースで入浴、この決まりになっているが申し出がある場合入っていただいている。 (外部評価) 利用者それぞれの希望や身体状態に合わせた支援をしている。現在2日に1回程度の入浴となっている。また夏期はシャワー浴の併用で毎日入浴している人もいる。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
58		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	(自己評価) 車椅子や腰掛に座りっぱなしになることのないよう、居室にて休んでいただく等考慮している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
59	24	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	(自己評価) できている。 (外部評価) それぞれが食事の手伝い、買物、洗濯物たたみ等の役割を持ち、園芸の作業も少しずつしている。散歩をしたり、月2回の遠足等も参加している。書の上手な方の作品が居室に飾られている。	※	月に2回の遠出をする。ドライブ等今後さらに検討する。
60		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 買い物のご希望にはその都度対応している。		
61	25	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	(自己評価) ご希望があれば職員の人数に応じてできる対応をしている。 (外部評価) 日常的な散歩や月2回の遠足を計画し支援している。個人的な希望への対応が可能な時は職員が支援している。		
62		○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	(自己評価) できる対応をしている。		
63		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) できている。		


自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
64		○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	(自己評価) プライバシーを守り居室でゆっくりお話ができるよう対応。湯茶のサービス等している。		
(4)安心と安全を支える支援					
65		○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 取り組みができています。		
66	26	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	(自己評価) 原則的にかけていないが利用者さんの安全上やむを得ずかける場合がある。 (外部評価) 鍵をかけないケアを理解しており取り組んでいる。落ち着かない利用者が居る時は一時的に出入口を物干し等で隠すこともあるが、職員は利用者の行動や居場所は常に把握している。	※	職員の数の充実 見守りを強化する。
67		○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	(自己評価) 時間毎の見守りをし安全に配慮している。		
68		○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	(自己評価) できている。		
69		○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	(自己評価) 服薬の管理等、又、研修をし事故防止に取り組んでいる。		
70		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	(自己評価) 折にふれミーティングしているマニュアルを作成している。	※	急変時の対応について初期対応等、定期的に訓練が必要である。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
71	27	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	(自己評価) 地域の人も一緒になっていただき組織作りの最中である。	※	今後さらに充実したものになるよう協力していきたい。
			(外部評価) 緊急時対応マニュアルを作成し、訓練等で活用している。しかし職員は特に夜間の不安を感じており、時々勉強会を持っている。運営推進会議でも取組みを始めている。	※	運営推進会議で取組みを始めたところであり、今後のさらなる取組みに期待する。また地震災害時の対応も検討内容に加えることも期待する。
72		○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	(自己評価)		今のところ一部の家族とのみであり一人ひとりの家族と話し合いが必要である。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
73		○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	(自己評価) できている。		
74		○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) できている。	※	新しい職員もおりにさらに確認をしておくよう努力していく。
75		○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	(自己評価) ほぼできている。	※	今後さらに対応の工夫が必要である。
76		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	(自己評価) できている。		
77	28	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) できているが水分摂取できにくい時がある	※	1日数回に分けて水分を進める等工夫していく。
			(外部評価) 献立は栄養士が1か月分作成しているが、利用者の希望等で変更することもある。手作りおやつを含め1400～1500kcal/日としている。水分の補給には気をつけている。嚥下障害のある方へのとろみ剤使用や胃ろう造設はできるだけ限界まで待ってから対応している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
78		○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取組みがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	(自己評価) マニュアルがある。充実している。		
79		○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	(自己評価) できている。	※	生ものの調理の後始末消毒をする、熱処理する、新しい食材を使用する。食事前の手指の消毒をする等。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
80		○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	(自己評価) 花、木を植える。 美しい派手囲むことなど、できている。		
81	29	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) できている。 (外部評価) 入り組んだ建物であるが、トイレのドア、廊下の手すり、浴室、台所や食堂の家具等工夫して配置している。季節感を感じる花飾りがある。廊下の狭い所の飾りについては工夫したい。		
82		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) ソファがあり寛ぐことができる。		
83	30	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) できている。 (外部評価) 居室は仏壇、テレビ、タンス、洋服掛け、花、書籍等があり個性的で、落ち着いて生活している。西日が入る所にはよしずが立てかけてある。自分で洗濯物を干せる方は居室のベランダに干している。		

自己 評価	外部 評価	項 目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又 は取組みを期 待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
84		○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	(自己評価) できている。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり					
85		○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) できている。		
86		○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	(自己評価) 馴染の物がある。工夫がしてある。		
87		○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	(自己評価) 外には畑がある。時々、外へ行き作物を取ることができる。		

(注)

- 1  部分は自己評価と外部評価の共通評価項目。
- 2 全ての自己評価又は外部評価の項目に関し、具体的に記入すること。

V. サービスの成果に関する項目			
項目	取り組みの成果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	判断した具体的根拠	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	(自己評価) 1 ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの 3 利用者の1/3くらいの 4 ほとんど掴んでいない	利用者さんの中には常に家族と居たいと訴える方もおり、又、外出したい希望もありすべてに付き添うことができない。
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	(自己評価) 1 毎日ある 2 数日に1回程度ある ③たまにある 4 ほとんどない	レベル低下の方が増え介助の時間が長くなる。介護のいる肩中心になりがちである。
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	(自己評価) 1 ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	職員の介助が殆ど要らない方は自分にペースで暮らしていただいている。
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	(自己評価) 1 ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	職員の気持ちが通じたとき良い笑顔、表情を見せていただくときがある。
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	(自己評価) 1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	自分の考えを出される方には対応している。(買い物とかカラオケ)
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	(自己評価) ①ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	バイタルチェックを毎日しており、看護師が常駐しておりそのように努めている。
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	(自己評価) ①ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	安心して暮らされている。
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	(自己評価) ①ほぼ全ての家族と 2 家族の2/3くらいと 3 家族の1/3くらいと 4 ほとんどできていない	不安なこと困ったことなど連絡しあい信頼関係を作っている。
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	(自己評価) 1 ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 3 たまに 4 ほとんどない	知人が来所されている。

項目		取り組みの成果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	判断した具体的根拠
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	1 大いに増えている (自己 ②少しずつ増えている 評価) 3 あまり増えていない 4 全くいない	会議を通して、又、地域の行事への参加等で理解者は増えている。
98	職員は、活き活きと働いている	①ほぼ全ての職員が (自己 2 職員の2/3くらいが 評価) 3 職員の1/3くらいが 4 ほとんどいない	年齢の高い職員が多いがそれなりにまじめに生き生き働いている。
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1 ほぼ全ての利用者が (自己 2 利用者の2/3くらいが 評価) ③利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	職員側としては頑張っているが、利用者さんは日々変化のある生活が良いようである。
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1 ほぼ全ての家族等が (自己 ②家族等の2/3くらいが 評価) 3 家族等の1/3くらいが 4 ほとんどできていない	概ね満足頂いていると思う。

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

(自己評価)

滋養のある食事をバランスよく作り食べていただく手作りおやつには工夫を凝らし挑戦中。

月2回程度お出かけをし通信でご家族にお届けしている。

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目
(評価項目の構成)

I.理念に基づく運営

1. 理念の共有
2. 地域との支えあい
3. 理念を実践するための制度の理解と活用
4. 理念を実践するための体制
5. 人材の育成と支援

II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援

III.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

1. 一人ひとりの把握
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し
3. 多機能性を活かした柔軟な支援
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働

IV.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

1. その人らしい暮らしの支援
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり

V.サービスの成果に関する項目

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー
“愛媛県地域密着型サービス評価”

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議の上記入すること。
- 各自己評価項目について、「取組みの事実」を記入し、取組みたいに※を付け、適宜その内容を記入すること。
- 「取組みの事実」は必ず記入すること。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含む。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含む。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含む。

事業所名	グループホームすみれの家
(ユニット名)	葉っぱ
記入者	
氏名	松田 和恵
評価完了日	平成19年 7月 15日

(別表第1)

自己評価及び外部評価票

【セル内での改行は「Alt+Enter」です。】

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	(自己評価) 人間らしく生きるがホームの理念であり、利用者を人生の先輩として敬い人間らしく過ごしてもらっている。 (外部評価) 開設時の理念を継続しているが、5年を経過して地域密着を視点に入れた理念については、職員間で話し合いが十分でない。	※	地域密着型サービスとしてグループホームにおける役割を勉強し向上したい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	(自己評価) 職員や利用者外部からの訪問者にも理念を共有し合えるよう掲げている。 (外部評価) 見えるところに掲示しておりミーティング時に話し合っている。また法人内のグループの役職者会議で情報交換し、取り組んでいる。	※	ミーティングなどで理念について認識しあう機会を多く持ちたい。
3		○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	(自己評価) 入居時の説明に盛り込んだり訪問者が見える場所に掲げている、。	※	地域の方々にもっと理解してもらえるよう職員全員が努力したい。
2. 地域との支えあい					
4		○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	(自己評価) 余りできていない。	※	近隣の方が立ち寄れる機会を設けたり、いつでも立ち寄れる雰囲気作りをしたい。
5	3	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	(自己評価) 自治会、町内会には時間の許す限り参加し地域活動には数名の職員が参加している。 (外部評価) 地域の活動には意欲的に参加しており、少しずつ機会を増やしている。利用者は地域の人々に顔を知ってもらっている。	※	現状を維持したい。。
				※	努力しているので、さらに続けていく事を期待する。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6		○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	(自己評価) 実施していない。	※	地域との関わりをもって積極的に取組んでいきたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
7	4	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	(自己評価) 意義は理解し評価は活かしているが具体的には改善されていない。	※	評価を活かして具体的な改善に取り組むよう職員間で努力したい。
			(外部評価) 評価の意義を理解して活かすことが十分でない職員もいる。自己評価ももっと時間をかけて丁寧に取組みたいと職員は考えている。	※	職員全体で意義を理解し、評価や結果を活かして具体的に改善につなげることを期待する。
8	5	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 地域の方々から頂いた意見を元に改善するよう努力している。	※	参加者の意見を元にホーム内の改善点を改善するよう見直している。
			(外部評価) まだまだ会議が十分活用されていない所もあるが、防災訓練については地域と協働の取り組みが始まっている。	※	運営方法等について工夫しながら今後も努力を続けることを期待する。
9	6	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	(自己評価) 今まではできていなかった。	※	機会を設け行き来するよう努力したい。
			(外部評価) 町内会長の自宅がホームの目の前にあることから、連携が取れ始めてきており、また地域の民生委員との交流もある。	※	機会毎にさらに努力を続けていくことを期待する。
10		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	(自己評価) セミナーなどに参加し多少理解はしているが活用できていない。	※	今後さらに学ぶ機会を持ちたい。
11		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) セミナーに参加したり、職員間でも話し合い防止に努めている。	※	虐待が見過ごされる事がないように新人職員にも指導していきたい。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制					
12		○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約時には双方で文面を確認し時間をかけて理解、納得していただくよう努めている。	※	こちら側からの満足ではなく、利用者側が十分に理解し納得するよう働きかける。
13		○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 契約時に苦情などの窓口になる職員を明確に伝え、対応に努めている。	※	利用者が意見や不満、苦情を外部者にも表せる機会を設けたい。
14	7	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	(自己評価) 毎月15日付でご家族さんへ通信を送付、暮らしぶり健康状態をお知らせしている。 (外部評価) 毎月1回書類送付しているほか、面会や電話等で報告したり情報交換しており、健康面は特に細かく連絡している。職員の異動は基本的には伝えていないがケースバイケースで対応している。	※	今後益々充実させていきたい。
15	8	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 職員間で話し合い対応に努めている。 (外部評価) 苦情等のホーム内外への連絡先を示している。ホームへ寄せられた意見等は担当者をはじめ管理者、営業等で話し合い、できるだけ早く対応し理解を得られるよう努めている。		
16		○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) できている。	※	今後さらに進めていければと思っている。
17		○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	(自己評価) 必要がある時の調整はできている。	※	継続したい。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
18	9	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	(自己評価) 利用者の都合により法人内の事業所への移動には馴染のスタッフも一緒に移動させている。 (外部評価) 利用者が法人内の事業所を移るときには職員が同じく異動し、介護者が継続するようにしている。また利用者個々に注目して対応している。	※	馴染の職員間で支援できるようにしていきたい。
5. 人材の育成と支援					
19	10	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 研修への参加を常に呼びかけている。 (外部評価) 新採用者は施設のオリエンテーション後2～3日間は先輩職員同伴で教育を受けている。ホーム内では毎日のミーティングや月1回の勉強会を定期的に行っている。外部研修では報告書を提出し、伝達もしている。	※	研修への参加意欲の薄い職員へも参加を勧めていきたい。
20	11	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	(自己評価) 法人内の他の事業所と交流することはあるが他の事業所と交流する機会は少ない。 (外部評価) 法人内の交流はあるが他事業所との交流は進んでおらず、研修や会議等での繋がり程度である。交流する場合は運営法人の統括の了解を得るシステムとなっている。	※	地域の事業所と交流する機会を持ちサービスの質の向上に役立てたい。
21		○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	(自己評価) 個別に悩みを聞き解決できるように努めている。	※	さらに、ストレス軽減に向けた工夫や環境作りに取り組みたい。
22		○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	(自己評価) 職員の勤務状況を把握し向上心を持って働けるよう努めている。	※	話す機会を多く持つように努めている。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
23		○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていることを本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	(自己評価) フェースシートを作成し本人自身と話す機会を多くもつようにしている。	※	今後も本人が求めている事に早く気付くよう注意を向けていく。
24		○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	(自己評価) 話し合いの場をもち努力している。	※	話す機会を多く持つように努めている。
25		○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) できている。		
26	12	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	(自己評価) 体験入居を行っている。 (外部評価) 営業担当者が配置され、各ホームの状況を把握しており、紹介で入居している。入居にあたっては本人・家族と相談している。また運営法人の別事業所デイケアを利用して入居するケースもある。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
27	13	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	(自己評価) 今までの生活歴を大切にしていき教えていただく事柄があればお願いしている。 (外部評価) 利用者の生活歴を大切にし、共に生活する関係を築いている。	※	今後も支えあう関係を大切にしていきたい。
28		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 今後も進めていく必要がある。	※	今後もさらにそのような関係を築いていきたい。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
29		○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	(自己評価) できている。	※	さらに、コミュニケーションを取れる機会が増えるようであれば良い。
30		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 努力が必要。	※	家族や利用者と話し合いながら支援に努める。
31		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	(自己評価) 一緒に外出する機会をもつなどしている。	※	一人ひとりが孤立しないよう支えていく。
32		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	(自己評価) できている。	※	声をかける事などしているがさらに努力が必要。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
33	14	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 利用者の希望や意向の出しやすいよう話す機会を設けている。 (外部評価) 職員は利用者一人一人の思いや意向の把握に努めているが、共有の手段としての記録はADL中心となっており、職員の気づき等の内容がなく、ミーティングやカンファレンスで活かせるものとなっていない。	※	利用者それぞれの思いや意向を把握でき、職員間で共有ししやすい記録となるよう期待する。
34		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) できている。	※	継続したい。
35		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	(自己評価) 日々の生活に中で把握するように努めている。	※	残存能力を把握し、低下させないよう努めたい。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
36	15	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	(自己評価) できる限り本人、家族、必要な関係者と話し合い以降や意見を取り入れ介護計画を作成している。	※	できる限り話し合っ作成しているが本人を交えての話し合いは行えていない部分もある。
			(外部評価) 毎日のショートミーティングやユニット会議で話し合い介護計画に活かしている。本人・家族の意見や思いも担当者が中心となり情報収集に努めている。		
37	16	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	(自己評価) 計画の時期に応じて見直しを行なうと共に対応に変化の必要性を認めた場合は修正を行なっている。	※	状況に変化が生じた場合早目の把握に努め状況に対応できるように今後も行なっていく必要がある。
			(外部評価) 定期的に見直し、毎月ユニット会議で検討している。また状況が変化した時はその都度対応している。	※	それぞれの介護記録は見直しの資料となるよう、利用者の情報が多方面から分かるように様式を工夫したり、記録の仕方を更に検討することを期待する。
38		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 日々の様子やケアの実践、結果をその後の実践や計画の修正に活かせるよう個別記録に記入し情報の共有に努めている。	※	気づきや工夫はあり記入されていることはあるが全てではなく申し送りやミーティング話し合ったりして活かせるようにしている場合が多い。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
39	17	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	(自己評価) 同グループ内や他施設での催し物へ参加していただいたりその時々々の要望に応じて支援を行なっている。 (外部評価) 同法人の他ホームの行事に参加したり、受診や理美容等対応している。デイサービスに参加したり胃ろうの人にも対応している。また小学生の福祉体験を受け入れている。	※	

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
40		○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	(自己評価) できていない。		
41		○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	(自己評価) できていない。		
42		○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	(自己評価) できていない。		
43	18	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	(自己評価) 本人及び家族等の希望を大切にし納得が得られ適切な医療を受けられるよう支援している。 (外部評価) 本人・家族の希望によるかかりつけ医の治療を受けられるように支援している。緊急時等は利用者ごとのマニュアルを作成しており、家族の了解も得て実践している。		
44		○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	(自己評価) 認知症専門医に利用者と共に受診し職員が相談したり利用者が診断、治療を受けられるよう支援している。		
45		○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	(自己評価) 相談しながら日常の健康管理や医療活用の支援をしている。		
46		○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	(自己評価) 利用者が入退院した場合に備えて情報交換や相談に努めている。	※	病院関係者との情報交換や体調が変化したときの対応等相談はしているが連携に努めていても取れない場合もある。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
47	19	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	(自己評価) 重度化した場合や終末期のあり方について状態を見極めて早期より家族、かかりつけ医等と話し合い方針を共有している。 (外部評価) 入居時には終末期について話し合えてないが、必要時には医師の診断後に説明し話し合っている。また、医師から直接家族に説明してもらうこともある。職員は不安も大きく情報交換や教育も必要であるため全員で取り組みたい。	※	本人を含めては話し合えていない。
48		○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	(自己評価) 利用者が終末期の日々をより良く過ごせるためにできること、できないことを見極めチームとして支援に取り組んでいる。	※	今後の状態や状況の変化に応じた検討、準備を行なっていない場合もある。
49		○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	(自己評価) 住み替えによるダメージを防げるように関わる関係者間で十分な話し合いや情報交換を行なっている。	※	今後も関係者間で協働を行い十分な話し合いや情報交換を行なっていく。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
50	20	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	(自己評価) 言葉かけや対応に気をつけ誇りやプライバシーを損ねないように努めている。 (外部評価) 言葉かけや対応は利用者を尊重して対応している。記録類の取扱いは保管等も含め再確認する。	※	今後もプライバシーの確保を行なっていく。
51		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	(自己評価) わかる力に合わせた説明を行い本人が思いや希望を表せるよう働きかけを行なっている。	※	今後も説明や働きかけを行い自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援を行なっていく。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
52	21	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 一人ひとりのペースを大切にし決まりや都合を優先してはいないか希望に沿っての支援はできていない場合もある。 (外部評価) 一人一人のペースを大切に、希望にそった支援をしている。	※	一人ひとりのペースを大切にしその日をどのように過ごしたいか希望に沿って支援できるよう努めていく。
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
53		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	(自己評価) その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している。本人が希望される場合は見せぬに約し行けるようにしている。		
54	22	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている (外部評価) 食事の準備や片付けができる方にはお願いしている。同じテーブルで楽しんで食事している。また嚥下困難な方へは細かく刻んだりとろみをつけたりやわらかく調理したりして細やかに対応している	※	銃運日、片付けのできる利用者が限られる。又、一人ひとりの好みや力が活かせるようメニュー等一緒に考えていく。
55		○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	(自己評価) 本人の嗜好に合わせて支援できるよう努めている。	※	現在の利用者の中でタバコは吸われていない。今後希望された場合は場所等考慮する必要あり。お酒は個別に個室で飲まれている場合が多い。
56		○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	(自己評価) 排泄のパターン、習慣を把握して排泄につながるよう支援している。	※	今後もパターン、習慣を把握して気持ちよく排泄できるよう支援していく。
57	23	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	(自己評価) 一人ひとりの希望やタイミングにあわせて入浴できるよう支援しているが、清潔の保持職員の数により制限される場合もある、 (外部評価) 利用者それぞれの希望や身体状態に合わせた支援をしている。現在2日に1回程度の入浴となっている。また夏期はシャワー浴の併用で毎日入浴している人もいる。	※	入浴を楽しむことができるよう声掛け等工夫しタイミングを考え希望に合った支援を行なっていく。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
58		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	(自己評価) 生活習慣や状況に応じて安心して休息し眠れるよう支援していく。	※	今後も生活習慣や状況に応じた支援を行なっていく。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
59	24	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	(自己評価) 一人ひとりの生活歴や力を活かした役割を担っていただいたり気晴らしに支援をしている。 <hr/> (外部評価) それぞれが食事の手伝い、買物、洗濯物たため等の役割を持ち、園芸の作業も少しずつしている。散歩をしたり、月2回の遠足等も参加している。書の上手な方の作品が居室に飾られている。	※	片付けや手伝い食事、買い物など利用者の力を活かし楽しみ気晴らしの支援を行なっていく。
60		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 一人ひとりの希望や力に応じてお金を所持し使えるよう支援している。	※	お金を持つことの大切さを理解し一人ひとりの希望や力に応じた支援を行なっていく。
61	25	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	(自己評価) 一人ひとりのその日の希望に沿って戸外に出かけられる場合もあるができない日もある。 <hr/> (外部評価) 日常的な散歩や月2回の遠足を計画し支援している。個人的な希望への対応が可能な時は職員が支援している。	※	職員の数や状況によってできないときもある。
62		○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	(自己評価) 利用者の希望を募り機会を作り出かける支援を行なっている。	※	今後も継続して行なっていく。
63		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 電話の支援は行なえている。	※	手紙のやり取りはされておらず今後希望される方がいらっしやれば支援していきたい。


自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
64		○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	(自己評価) 何時でも気軽に訪問でき過ごせるよう支援している。		今後も継続して支援していく。
(4)安心と安全を支える支援					
65		○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 鍵をかけないケアに取り組んでいる。	※	禁止の対象となる具体的な行為を確認し拘束しないケアに取り組んでいく。
66	26	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	(自己評価) 鍵をかけないケアに取り組んでいる。 (外部評価) 鍵をかけないケアを理解しており取り組んでいる。落ち着いた利用者が居る時は一時的に出入口を物干し等で隠すこともあるが、職員は利用者の行動や居場所は常に把握している。	※	弊害を理解し今後も鍵をかけないケアに取り組んでいく。
67		○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	(自己評価) プライバシーに配慮しながら利用者の所在や様子を把握し安全に配慮している。	※	長時間姿が見えないことが無いよう時間を見て訪室や超え掛けをし様子の把握や安全の配慮に努める。
68		○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	(自己評価) 利用者一人ひとりのそのときの状況に応じて職員間で話し合い危険を防ぐ取り組みをしている。	※	状況、状態に応じた対応を考えていくために職員間で情報を共有し統一した対応を取る。
69		○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	(自己評価) 知識を持っていても一人ひとりの状況に応じた対応が取れるとは限らず職員間で共有していく必要がある。	※	一人ひとりの状況に応じた事故防止に取組めるよう状況に応じた対策を学習していくことが必要。
70		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	(自己評価) 急変や事故防止に備え対応できるよう連絡網は取れているが対応の訓練は定期的に行なっていない。	※	応急手当や初期対応の訓練を定期的に行なっていく必要がある。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
71	27	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	(自己評価) 運営推進会議を開催し地域の方に協力をお願いしている。	※	職員がすぐに駆けつけられるような体制を整えていきたい。
			(外部評価) 緊急時対応マニュアルを作成し、訓練等で活用している。しかし職員は特に夜間の不安を感じており、時々勉強会を持っている。運営推進会議でも取組みを始めている。	※	運営推進会議で取組みを始めたところであり、今後のさらなる取組みに期待する。また地震災害時の対応も検討内容に加えることも期待する。
72		○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	(自己評価) 家族の面会時に話しをし最善の方法を考えている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
73		○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	(自己評価) 個人の体調を把握し変化があれば看護師、主治医に連絡している。	※	体調変化の早期発見に努める。
74		○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 利用者の一人ひとりに薬カードを作成し確認しながら服用している。	※	薬の変更等全職員への確認を徹底する。
75		○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	(自己評価) 便秘気味の方には毎日乳酸飲料を飲んでいただいている。	※	適度な運動ができるよう工夫していきたい。
76		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	(自己評価) 毎朝、食後の歯磨き義歯の洗浄を行っている。	※	全員毎食後の口腔ケアができるようしていきたい。
77	28	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 食事量を毎回チェックし記録している。		
			(外部評価) 献立は栄養士が1か月分作成しているが、利用者の希望等でも変更することもある。手作りおやつを含め1400～1500kcal/日としている。水分の補給には気をつけている。嚥下障害のある方へのとろみ剤使用や胃ろう造設はできるだけ限界まで待ってから対応している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
78		○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取組みがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	(自己評価) マニュアルがあり実行している。	※	時々勉強会を行って職員の知識の向上を図りたい。
79		○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	(自己評価) 食材に日付けをつけ、必要以上に買わないようにしてい。	※	台所用品の消毒の徹底、食事前の手指消毒をする。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
80		○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	(自己評価) 玄関周囲に季節の花を置き明るい雰囲気を作っている。		
81	29	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) リビングは南向きで日中も明るく季節ごとに飾り付けをしている。 (外部評価) 入り組んだ建物であるが、トイレのドア、廊下の手すり、浴室、台所や食堂の家具等工夫して配置している。季節感を感じる花飾りがある。廊下の狭い所の飾りについては工夫したい。		
82		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) ソファーに座ってテレビが見れたり寛げるように家具の位置を工夫している。		
83	30	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 入居前に使われていた使い慣れた物を持ち込んでもらっている。 (外部評価) 居室は仏壇、テレビ、タンス、洋服掛け、花、書籍等があり個性的で、落ち着いて生活している。西日が入る所にはよしずが立てかけてある。自分で洗濯物を干せる方は居室のベランダに干している。	※	家族の協力を得てより一層居心地良く生活できるように工夫していきたい。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
84		○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	(自己評価) 季節によって窓の開閉エアコンの温度調整をし注意している。	※	利用者の体調や様子をみながら行いたい。
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり					
85		○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 利用者の状態により安全に生活できるように空間作りをしている。		
86		○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	(自己評価) 使い慣れたものに名前を書き、分かりやすくしている。	※	各自一人で出来る事は行ってもらっている。
87		○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	(自己評価) 外に畑があり季節の野菜を植え収穫している。		

(注)

- 1  部分は自己評価と外部評価の共通評価項目。
- 2 全ての自己評価又は外部評価の項目に関し、具体的に記入すること。

V. サービスの成果に関する項目		
項目	取り組みの成果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	判断した具体的根拠
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (自己評価) 1 ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの 3 利用者の1/3くらいの 4 ほとんど掴んでいない	利用者の全ての希望に添えてるとはいえない。希望に添えるように努めていきたい。
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (自己評価) 1 毎日ある ②数日に1回程度ある 3 たまにある 4 ほとんどない	職員と一緒に買い物や散歩に行っている。
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (自己評価) ①ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	介助が要らない方は自分のペースで暮らしている。
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (自己評価) 1 ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	笑顔や楽しい様子がみられる。
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (自己評価) 1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	重度な介護状態の方以外は対応している。
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (自己評価) ①ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	バイタルチェックを毎日行い、必要に応じて病院受診を行っている。
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (自己評価) 1 ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	利用者からの要望を聞きサポートしている。
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (自己評価) 1 ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと 3 家族の1/3くらいと 4 ほとんどできていない	面会が少ない利用者もいるため信頼関係が築けない方もいる。
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (自己評価) 1 ほぼ毎日のように 2 数日に1回程度 ③たまに 4 ほとんどない	今後地域の方とのつながりを強めていきたい。

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	判断した具体的根拠
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	1 大いに増えている (自己 ②少しずつ増えている 評価) 3 あまり増えていない 4 全くいない	会議や地域の行事への参加等で理解者は増えている。
98	職員は、活き活きと働いている	1 ほぼ全ての職員が (自己 ②職員の2/3くらいが 評価) 3 職員の1/3くらいが 4 ほとんどいない	利用者に元気をもらい職員間のトラブルもなく明るい雰囲気勤務ができている。
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1 ほぼ全ての利用者が (自己 2 利用者の2/3くらいが 評価) ③利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	変化が余りない生活なため退屈しているりようしゃもいる様子である。
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1 ほぼ全ての家族等が (自己 ②家族等の2/3くらいが 評価) 3 家族等の1/3くらいが 4 ほとんどできていない	満足していただいている方だと思う。

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

(自己評価)

体調の悪い利用者を皆で励まし支えていきます。ご希望があれば住み慣れた場所で最後を迎えることもできます。

そのために職員は一丸となってお世話します。

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目
(評価項目の構成)

I. 理念に基づく運営

1. 理念の共有
2. 地域との支えあい
3. 理念を実践するための制度の理解と活用
4. 理念を実践するための体制
5. 人材の育成と支援

II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援

III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

1. 一人ひとりの把握
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し
3. 多機能性を活かした柔軟な支援
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

1. その人らしい暮らしの支援
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり

V. サービスの成果に関する項目

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー
“愛媛県地域密着型サービス評価”

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議の上記入すること。
- 各自己評価項目について、「取組みの事実」を記入し、取組みたいに※を付け、適宜その内容を記入すること。
- 「取組みの事実」は必ず記入すること。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含む。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含む。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含む。

事業所名 グループホームすみれの家

(ユニット名) 花

記入者
氏名 政岡 美知子

評価完了日 平成19年 7月 15日

(別表第1)

自己評価及び外部評価票

【セル内での改行は「Alt+Enter」です。】

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	(自己評価) すみれ会の理念があり各ユニットなどに掲示している。 (外部評価) 開設時の理念を継続しているが、5年を経過して地域密着を視点に入れた理念については、職員間で話し合いが十分でない。	※	職員は地域とのつながりを大切にしており、その重要性も理解しているが、利用者の視点で地域とのつながりについて職員間で再考することを期待する。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	(自己評価) 毎日の月一回のユニット会議にて話し合いを持っている。 (外部評価) 見えるところに掲示しておりミーティング時に話し合っている。また法人内のグループの役職者会議で情報交換し、取り組んでいる。		
3		○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	(自己評価) 地域の運動会や盆踊りに参加させてもらっている。		
2. 地域との支えあい					
4		○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	(自己評価) 玄関先に花を飾り立ち寄ってもらいやすいように工夫している。		
5	3	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	(自己評価) 町内の清掃活動に参加したり地域活動などにも参加させてもらっている。 (外部評価) 地域の活動には意欲的に参加しており、少しずつ機会を増やしている。利用者は地域の人々に顔を知ってもらっている。	※	努力しているので、さらに続けていく事を期待する。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6		○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	(自己評価) 特にしていない。	※	運営推進会議で取り組み地区の防災セットをすみれの家内に設置してもらう。(現在準備中)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
7	4	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	(自己評価) 評価結果を元に改善策を講じる。	※	職員全員は理解されていない。
			(外部評価) 評価の意義を理解して活かすことが十分でない職員もいる。自己評価ももっと時間をかけて丁寧に取り組みたいと職員は考えている。	※	職員全体で意義を理解し、評価や結果を活かして具体的に改善につなげることを期待する。
8	5	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 会議は実践しているが回数が少ないためまだ不足気味である。	※	運営方法等について工夫しながら今後も努力を続けることを期待する。
			(外部評価) まだまだ会議が十分活用されてない所もあるが、防災訓練については地域と協働の取り組みが始まっている。		
9	6	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	(自己評価) 実施中である。	※	機会毎にさらに努力を続けていくことを期待する。
			(外部評価) 町内会長の自宅がホームの目の前にあることから、連携が取れ始めてきており、また地域の民生委員との交流もある。		
10		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	(自己評価) 研修などを受け知識など身につけつつあり必要な家族には話をしている。		
11		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 研修など受講の機会を設けている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制					
12		○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 実施している。契約書を基に行なっている。		
13		○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 苦情窓口を設け応じている。		
14	7	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	(自己評価) 毎月契約書発行時に様子などをなるべく詳しく伝えるようにしている。 (外部評価) 毎月1回書類送付しているほか、面会や電話等で報告したり情報交換しており、健康面は特に細かく連絡している。職員の異動は基本的には伝えていないがケースバイケースで対応している。		
15	8	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 苦情窓口を設け応じている。 (外部評価) 苦情等のホーム内外への連絡先を示している。ホームへ寄せられた意見等は担当者をはじめ管理者、営業等で話し合い、できるだけ早く対応し理解を得られるよう努めている。		
16		○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 週一回主任会議を開き職員からの意見を伝えてもらっている。		
17		○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	(自己評価) お出かけ病院受診などの時は職員を増員している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
18	9	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	(自己評価) 急な移動や離職はあるがすぐに職員の増員はしてもらっている。 (外部評価) 利用者が法人内の事業所を移るときには職員が同じく異動し、介護者が継続するようにしている。また利用者個々に注目して対応している。		
5. 人材の育成と支援					
19	10	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 研修の受講費用を事業所が負担し参加している。又、報告書を掲示したの職員も共有できるようにしている。 (外部評価) 新採用者は施設のオリエンテーション後2～3日間は先輩職員同伴で教育を受けている。ホーム内では毎日のミーティングや月1回の勉強会を定期的に行っている。外部研修では報告書を提出し、伝達もしている。	※	研修への参加意欲の薄い職員へも参加を促していきたい。
20	11	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	(自己評価) 交流の機会などはないがセミナーなどの報告会などで他の施設の情報を得ている。 (外部評価) 法人内の交流はあるが他事業所との交流は進んでおらず、研修や会議等での繋がり程度である。交流する場合は運営法人の統括の了解を得るシステムとなっている。	※ ※	地域の事業所と交流する機会を持ちサービスの質の向上に役立てたい。 日常業務等の内容で意見交換したり交流することも大いに意味があると思われるので、取り組みの検討を期待する。
21		○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	(自己評価) 各ユニット毎に食事会などを行い交流をしている。		
22		○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	(自己評価) 研修など積極的に参加できるようにしている。	※	話す機会を多く持つように努めている。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
23		○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていることを本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	(自己評価) 利用者本人が不安にならないように常に見守り本人から訴えられるような環境を作っている。	※	今後も本人が求めている事に早く気付くよう注意を向けていく。
24		○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	(自己評価) 面会時に希望や不安なことを聞くようにしている。		
25		○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 相談を受けたらケアマネや専門の機関と相談し対応に努めている。	※	職員の知識不足のため勉強が必要である。
26	12	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	(自己評価) 事前に本人や家族に目的や必要性を説明している。 (外部評価) 営業担当者が配置され、各ホームの状況を把握しており、紹介で入居している。入居にあたっては本人・家族と相談している。また運営法人の別事業所デイケアを利用して入居するケースもある。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
27	13	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	(自己評価) 利用者の中には同世代の方もおり同じ時代の話をしたり同性で悩みを打ち明けたりして共有しあっている。 (外部評価) 利用者の生活歴を大切に、共に生活する関係を築いている。	※	今後も支えあう関係を大切にしていきたい。
28		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 面会時には最近の様子を伝えたり家族の希望など聞くようにしこちらの希望も理由を明確にし話をするようにしている。	※	家族会などを設け交流の機会があってもいいと思う。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
29		○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	(自己評価) 家族が面会にこられた後の喜んだ様子や楽しみにしている事を伝えるようにしている。	※	さらに、コミュニケーションを取れる機会が増えるようであれば良い。
30		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 利用者の普段の会話などから行きたい場所昔住んでいた場所などを聞くことができたらドライブがてらで掛けてみるようにしている。		
31		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	(自己評価) 利用者同士が仲良くできるように職員間や利用者との関係作りに努めている。		
32		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	(自己評価) 長期入院により退所の場合が多く入院の場合面会に行ったり退院後のj相談にも応じている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
33	14	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) なるべく希望に添えるよう努めているが発語が少なく思うように成っていないかもしれない。 (外部評価) 職員は利用者一人一人の思いや意向の把握に努めているが、共有の手段としての記録はADL中心となっており、職員の気づき等の内容がなく、ミーティングやカンファレンスで活かせるものとなっていない。	※	利用者それぞれの思いや意向を把握でき、職員間で共有ししやすい記録となるよう期待する。
34		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 家族や面会者に昔のことなどを聞くようにしている。		
35		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	(自己評価) 把握するようにはしているが、職員の一方的な考えで行動することもある。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
36	15	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	(自己評価) ユニット会議で話し合いその後職員一人が利用者一人を責任を持って介護計画を立てている。		
			(外部評価) 毎日のショートミーティングやユニット会議で話し合い介護計画に活かしている。本人・家族の意見や思いも担当者が中心となり情報収集に努めている。		
37	16	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	(自己評価) 3ヶ月に一度介護計画を立て1ヶ月に一度見直しをしている。毎月ユニット会議で細かいことまで話し合うようにしている。		
			(外部評価) 定期的に見直し、毎月ユニット会議で検討している。また状況が変化した時はその都度対応している。	※	それぞれの介護記録は見直しの資料となるよう、利用者の情報が多方面から分かるように様式を工夫したり、記録の仕方を更に検討することを期待する。
38		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 日々の様子ケアの実践など介護記録に個別に記入し重要なこと(転倒、バイタルなど)は赤字で記入している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
39	17	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	(自己評価) 医療行為が必要となった場合24時間看護職員が覚醒している他の事業所への移動を進めている。		
			(外部評価) 同法人の他ホームの行事に参加したり、受診や理美容等対応している。デイサービスに参加したり胃ろうの人にも対応している。また小学生の福祉体験を受け入れている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
40		○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	(自己評価) 特にしていない	※	
41		○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	(自己評価) 特にしていない	※	
42		○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	(自己評価) 特にしていない	※	
43	18	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	(自己評価) 入所前からのかかりつけ医に定期的に受診している。 (外部評価) 本人・家族の希望によるかかりつけ医の治療を受けられるように支援している。緊急時等は利用者ごとのマニュアルを作成しており、家族の了解も得て実践している。		
44		○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	(自己評価) 必要に応じて家族の理解を取り専門医を受診するようになっている。		
45		○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	(自己評価) 職員の中に看護職のものが居て相談しながら支援している。		
46		○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	(自己評価) 入院中に面会に行き医師や看護師と情報交換したり退院後の相談をし準備している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
47	19	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	(自己評価) 看取りの介護を目指し寝たきりになっても最後まで介護できるように職員間では共有している。 (外部評価) 入居時には終末期について話し合えてないが、必要時には医師の診断後に説明し話し合っている。また、医師から直接家族に説明してもらうこともある。職員は不安も大きく情報交換や教育も必要であるため全員で取り組みたい。	※	早い段階での見極めは難しい。
48		○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	(自己評価) 寝たきりになっている利用者が病院受診不可能になった場合かかりつけの病院からの往診は可能かどうか問い合わせ中である。	※	細かいところまで検討する必要がある。
49		○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	(自己評価) 急な変化により状態が悪くならないようアセスメントを記入し 退所時など、次の施設に情報は伝えている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
50	20	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	(自己評価) ゆっくりと利用者の顔を見て声かけをし介護記録は常に職員が管理している。 (外部評価) 言葉かけや対応は利用者を尊重して対応している。記録類の取扱いは保管等も含め再確認する。	※	面接ノートをはじめ記録類については、記載内容・方法、保管等について職員間で検討することを期待する。
51		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	(自己評価) 利用者本人からの発語が無い場合職員からの問いかけにより身振り手振りで判断している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
52	21	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 利用者の目標や希望に添えるように支援している。 (外部評価) 一人一人のペースを大切にし、希望にそった支援をしている。		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
53		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	(自己評価) 経済的に余裕の無い利用者は美容師資格者の職員が本人の希望を聞き髪を切っている。		
54	22	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 各自茶碗や箸は自分専用の物を使い食べやすいように刻みやトロミをつけて工夫している。 (外部評価) 食事の準備や片づけができる方にはお願いしている。同じテーブルで楽しんで食事している。また嚥下困難な方へは細かく刻んだりとろみをつけたりやわらかく調理したりして細やかに対応している。		
55		○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	(自己評価) 利用者の希望を聞き主治医とも相談しながら支援している。		
56		○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるように支援している	(自己評価) トイレ誘導の声かけを続け排泄のパターンを活用できるように努めている。		
57	23	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	(自己評価) 利用者のお湯の温度や時間を希望にあわせている。 (外部評価) 利用者それぞれの希望や身体状態に合わせた支援をしている。現在2日に1回程度の入浴となっている。また夏期はシャワー浴の併用で毎日入浴している人もいる。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
58		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	(自己評価)		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
59	24	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	(自己評価) 夜間睡眠が十分でなかった時は日中でも寝具に横になり休んでもらうよう促がしている。 (外部評価) それぞれが食事の手伝い、買物、洗濯物たたみ等の役割を持ち、園芸の作業も少しずつしている。散歩をしたり、月2回の遠足等も参加している。書の上手な方の作品が居室に飾られている。		
60		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 自己管理は難しいので職員が預かり利用者の希望に添えるよう職員も同行し買い物に行っている。		
61	25	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	(自己評価) 近所の公園やドライブなど出かける機会がある。 (外部評価) 日常的な散歩や月2回の遠足を計画し支援している。個人的な希望への対応が可能な時は職員が支援している。		
62		○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	(自己評価) 月に1度は全員で出かけられるように職員は利用者の希望を聞き計画を立てている。		
63		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 利用者の希望があれば電話で話す機会を作っている。		


自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
64		○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	(自己評価) 家族や知人が面会に来られるとお茶を出し 居室内でゆっくり過ごせるようにしている。		
(4)安心と安全を支える支援					
65		○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 身体拘束をしない工夫をしている。		
66	26	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	(自己評価) 出入り口がリビングより見えにくい位置にあたり徘徊が多く見られたり落ち着かなかつたりすると出入り口に物干しや段ボールをドアのj 半分的位置に置く工夫をしている。 (外部評価) 鍵をかけないケアを理解しており取り組んでいる。落ち着かない利用者が居る時は一時的に出入口を物干し等で隠すこともあるが、職員は利用者の行動や居場所は常に把握している。		
67		○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	(自己評価) 利用者の居場所を常に把握し居室内は時間を見て確認している。		
68		○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	(自己評価) 利用者がカミソリを使用していたが電気カミソリに変えてもらうように家族に話し変えてもらった。		
69		○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	(自己評価) 事故後報告書を出しユニット内で改善策を話し合っている。		
70		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	(自己評価) 訓練はしていないがマニュアルが各ユニットに配置されている。	※	救命救急法の講習の実施

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
71	27	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	(自己評価) 運営推進会議にて取り組み地域の人々の協力をお願いしたり職員の教育も考えている。 (外部評価) 緊急時対応マニュアルを作成し、訓練等で活用している。しかし職員は特に夜間の不安を感じており、時々勉強会を持っている。運営推進会議でも取り組みを始めている。	※	運営推進会議で取り組みを始めたところであり、今後のさらなる取り組みに期待する。また地震災害時の対応も検討内容に加えることも期待する。
72		○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	(自己評価) 家族が面会に来られた時に話したり請求書発送時に現在の様子を詳しく伝えるようにしている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
73		○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	(自己評価) 申し送りを徹底している。		
74		○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 一人ずつおきお薬カードを作り確認しながら服用している。		
75		○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	(自己評価) 厨房でカスピ海ヨーグルトを作り食べてもらっている。		
76		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	(自己評価) 毎朝、就寝前には声掛け、付き添い必要なときは介助を行なっている。		
77	28	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 食事量を毎回チェックし記録し人目でわかるようにしている。 (外部評価) 献立は栄養士が1か月分作成しているが、利用者の希望等で変更することもある。手作りおやつを含め1400～1500kcal/日としている。水分の補給には気をつけている。嚥下障害のある方へのとろみ剤使用や胃ろう造設はできるだけ限界まで待ってから対応している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
78		○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取組みがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	(自己評価) 感染予防対策のマニュアルがある。		
79		○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	(自己評価) 台所用品などは毎日ハイター漂白している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
80		○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	(自己評価) 常に清掃し花や観葉植物が置かれデイサービスによる壁面の作品が飾られている。	※	職員が多いため駐車スペースが無くなる。近所に駐車場を確保してほしい。
81	29	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 西側に窓があるため夏になると特に西陽が当たり不快であるがよしずや黒いシートを貼り少しではあるが改善された。 <hr/> (外部評価) 入り組んだ建物であるが、トイレのドア、廊下の手すり、浴室、台所や食堂の家具等工夫して配置している。季節感を感じる花飾りがある。廊下の狭い所の飾りについては工夫したい。		
82		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) リビングが狭いがソファの位置を工夫している。		
83	30	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 入所時に以前使用していた家具や使い慣れた食器を持ち込まれ使っている。 <hr/> (外部評価) 居室は仏壇、テレビ、タンス、洋服掛け、花、書籍等があり個性的で、落ち着いて生活している。西日が入る所にはよしずが立てかけてある。自分で洗濯物を干せる方は居室のベランダに干している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
84		○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	(自己評価) 常に気を配り居室内は食事中、入浴中窓を開けたりリビングはお出かけをした時や利用者が居ない時には換気に努めている。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり					
85		○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 居室内に手摺が必要な利用者には手摺をつけたり段差が気になる利用者には畳を敷いていない。		
86		○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	(自己評価) 居室内に混乱するような多量な荷物は押入れにかたづけたり名札をつけたりして判りやすくしている。		
87		○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	(自己評価) 玄関にはいろいろな花を植えたり畑には季節の野菜を植え水撒きや収穫を楽しんでいる。		

(注)

- 1  部分は自己評価と外部評価の共通評価項目。
- 2 全ての自己評価又は外部評価の項目に関し、具体的に記入すること。

V. サービスの成果に関する項目		
項目	取り組みの成果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	判断した具体的根拠
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (自己評価) 1 ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの 3 利用者の1/3くらいの 4 ほとんど掴んでいない	今のところ利用者の希望に添えるように努めている。
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (自己評価) ①毎日ある 2 数日に1回程度ある 3 たまにある 4 ほとんどない	一緒にお茶を飲んだり散歩に行き話ができる時間が十分にある。
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (自己評価) 1 ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	殆どの利用者が発語が無いため十分に満足しているか不明。
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (自己評価) 1 ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	利用者から積極的に話しかけられたり散歩に誘われたりして笑顔も見られる。
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (自己評価) ①ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	利用者からの訴えは殆ど無いが職員が促がすと応じられる。
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (自己評価) ①ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	バイタルチェックや内科医の往診など必要に応じて病院受診も職員同士によって行なっている。
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (自己評価) ①ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	利用者からの要望を殆ど聞くことが無い
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (自己評価) ②ほぼ全ての家族と 2 家族の2/3くらいと 3 家族の1/3くらいと 4 ほとんどできていない	面会が少なく信頼関係が保たれているかどうかは判らない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (自己評価) 1 ほぼ毎日のように 2 数日に1回程度 ③たまに 4 ほとんどない	長期間入所されているとだんだん減少してきている

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	判断した具体的根拠
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	1 大いに増えている (自己 ②少しずつ増えている 評価) 3 あまり増えていない 4 全くいない	散歩のときなど挨拶や声かけを近所の方がしてくださる
98	職員は、生き活きと働いている	1 ほぼ全ての職員が (自己 ②職員の2/3くらいが 評価) 3 職員の1/3くらいが 4 ほとんどいない	長期休暇が取りにくかったり勤務にばらつきがあるため疲れがたまりやすい
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1 ほぼ全ての利用者が (自己 ②利用者の2/3くらいが 評価) 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	笑顔が見られる
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1 ほぼ全ての家族等が (自己 ②家族等の2/3くらいが 評価) 3 家族等の1/3くらいが 4 ほとんどできていない	入所してから間もない家族からはいろいろと苦情 をきくことがある

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

(自己評価)

入所中に入院するようになっても退院後の受け入れができるよう準備している